



第34回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

男子

令和6年2月17日 17:35 開始

準々決勝

香芝市総合体育館 C

和歌山南陵	81	<table border="1"> <tr><td>16</td><td>1st</td><td>23</td></tr> <tr><td>27</td><td>2nd</td><td>26</td></tr> <tr><td>19</td><td>3rd</td><td>18</td></tr> <tr><td>19</td><td>4th</td><td>21</td></tr> </table>	16	1st	23	27	2nd	26	19	3rd	18	19	4th	21	88	◎ 阪南大学 (大阪)
16	1st	23														
27	2nd	26														
19	3rd	18														
19	4th	21														

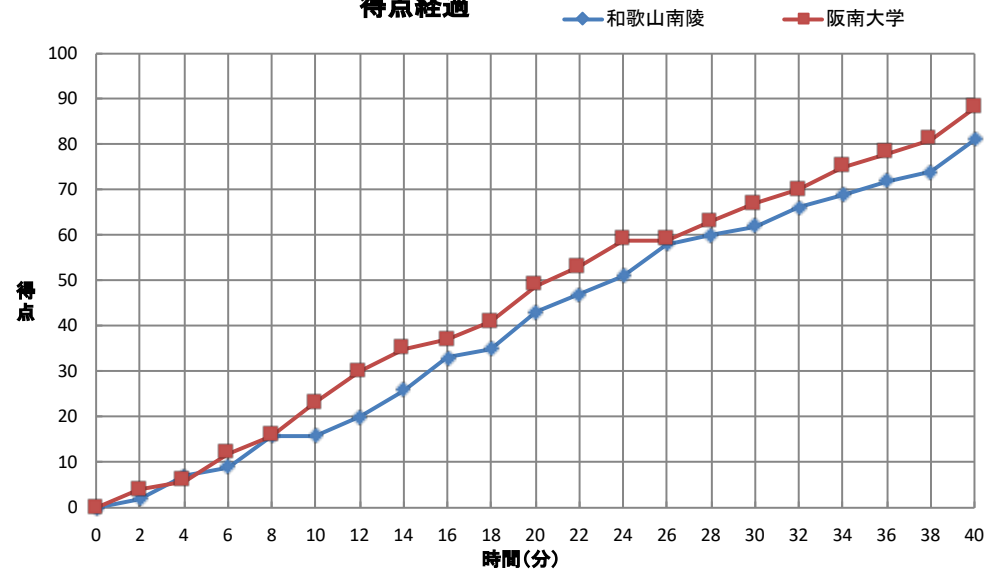
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則
* 4	二宮 有志	21	4	2	5	3	0	稲垣 圭亮	0	0	0	0	0
* 5	紺野 翔太	13	1	4	2	3	28	芝池 竜司	0	0	0	0	4
* 6	ALIYU IDRIS ABUBAKAR	27	0	9	9	4	* 4	ソワンホ チネドゥ ゴツツウナル	30	0	13	4	5
* 7	藤山 凌成	11	1	4	0	0	10	エバネ ナブノ ジャフエット	4	0	2	0	0
* 8	酒井 珀	7	1	2	0	1	* 11	池野 照汰	12	1	3	3	0
9	中村 允飛	2	0	1	0	3	26	田深 翔太	0	0	0	0	0
							33	吉田 晴秋	0	0	0	0	0
							* 35	酒井 優	10	0	4	2	4
							* 37	松本 星希	19	1	6	4	0
							41	中河原 温大	0	0	0	0	0
							* 54	川島 恭平	6	0	3	0	1
							66	澤田 世生	0	0	0	0	0
							67	児玉 遼太	2	0	0	2	1
							91	花田 龍哉	5	1	1	0	1
							95	松井 翔希	0	0	0	0	0
コーチ	和中 裕輔						コーチ	森本 正					
Aコーチ	小林 祐哉						Aコーチ	坂本 洋志					
合計		81	7	22	16	14	合計		88	3	32	15	16

クルーチーフ: 小畑 治

1stアンパイア: 外川 雄介

2ndアンパイア: 高畑 昇平

得点経過



TO	1・2Q	3・4Q		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	9:01	16:10	24:00	32:42	37:34	:	:
TeamB	:	:	:	:	:	:	:

〔戦評〕
 和歌山南陵#4#5#6#7#8 阪南大#4#11#35#37#54。
 第1ピリオド、和歌山南陵マンツーマン、阪南大で2-1-2のゾーンプレスから1-3-1のゾーンでスタートする。阪南大は#6のリング下のシュートや#11の1対1などで得点を重ね流れを掴む。対する和歌山南陵も#6のリング下のシュートや#4の3Pなどで応戦していく。残り1分をきったところで阪南大が速攻で16対20と阪南大が4点リードしたところで和歌山南陵がタイムアウト。その後、阪南大#37の3Pが決まり、1Q16対23で阪南大7点リードで終了する。第2ピリオド、和歌山南陵2-3のゾーン、阪南大は1-3-1のゾーンでスタート。阪南大#11、#35の連続得点で引き離しにかかるが、和歌山南陵の#4#5の3Pで応戦する。和歌山南陵がマンツーマンに変更して、流れを変え、和歌山南陵#4の3Pやフリースローなどで追隨する。対する阪南大も#11や#35のシュートで応戦し、一進一退の攻防が続く。阪南大#10が入り、リング下で頑張りを見せ、前半を43対49阪南大6点リードで折り返す。第3ピリオド、両チーム、マンツーマンでスタートする。阪南大は#4のリング下のシュートや#37の1対1で加点し、リードを広げようとする。和歌山南陵も#6のリング下や#7の1対1で応戦するが、残り6分で51対59と阪南大が8点リードしたところで和歌山南陵がたまたまタイムアウトをとる。その後、和歌山南陵#7の3Pと#6のリング下のシュートが決まり、流れを変え、1点差に詰め寄るが、阪南大も#4#37が入れ返し、62対67で阪南大5点リードで終了する。第4ピリオド、和歌山南陵マンツーマン、阪南大1-3-1のゾーンディフェンスで始まる。阪南大がゾーンプレスで仕掛け、#91の3Pが決まり、7点差になり、和歌山南陵がタイムアウト。その後も一進一退の攻防が続く、和歌山南陵#7#4の3Pで得点するが、阪南大#4が力強いプレーで確実に加点していく。最後まで和歌山南陵が粘りを見せるが、阪南大が着実にフリースローを決め、ゲームをコントロールし、差が縮まらず、81対88で阪南大が勝利し、ベスト4進出した。

戦評: 中辻 和宏

記録: 高田高校